

鳥取県経済同友会東部地区 9 月例会報告

- 1 日 時 令和7年9月26日（金）18：30～
- 2 場 所 ホテルニューオータニ鳥取「鳳凰の間」
- 3 講 演 「鳥取城の魅力について」
鳥取市教育委員会事務局
文化財課課長 佐々木 孝文 氏
- 4 出席者 会員22名
- 5 講演概要等

9月例会は広域観光委員会が担当で、鳥取市の観光拠点の一つになっている鳥取城跡について、鳥取市教育委員会事務局の佐々木課長に観光の視点を取り入れてお話をいただきました。

以下講演のポイントです。

鳥取城は、16世紀中頃、但馬山名氏によって、久松山に砦が築かれたことから始まっている。

戦国時代、天下統一を目指す織田信長は、二度にわたり羽柴秀吉を総大将として、毛利方の最前線であった鳥取城を攻めた。

一度目の攻撃のあと毛利方より鳥取城主として派遣された吉川経家は、毛利方と鳥取城との間にある千代川をみて、戦闘の中での物資の補給が難しいと考え、鳥取城は助からないと思っていた。二度目の城攻めの際、籠城した吉川経家に対し秀吉は「兵糧攻め」を行った。兵糧が尽きて悲惨な状況になった部下や民衆を救うため、吉川経家は自らの命と引き換えに開城した。その遺徳を顕彰するため、お堀端に吉川経家公像が設置されている。

また、太閤ヶ平は鳥取城攻めに際して陣城が築かれた場所で、織田信長の出陣を前提に築かれている。他の城攻めの本陣と比較して、圧倒的な土量を誇り、日本最高傑作の陣城と評されている。

天球丸の下部にある巻石垣は、石垣の崩落を防止するために築かれたもので、多に例をみない大きさと独特な形状から、鳥取城跡を訪れる観光客の人気スポットになっている。

2018年に復元された擬宝珠橋は橋長約37mで、城郭復元木造橋としては日本一の長さを誇る。また、発掘調査で発見された堀底に残る橋脚遺構を保護するため、特殊なステンレス製水中梁を設置し、その上に木造橋を復元するという日本初の工法を採用した。こうした画期的な工法は、今後の橋梁建設に貢献するとされ、2020年に我が国の橋梁界で最高の荣誉と称される土木学会田中賞を受賞した。

今後の鳥取城跡の復元計画については、既に復元した擬宝珠橋、中ノ御門表門、二階建の中ノ御門渡櫓門に次いでどこを復元するか、現在計画の見直し中である。



【講演する佐々木孝文氏】